[事案 30-195] 契約無効等請求

・平成 31 年 3 月 28 日 裁定終了

<事案の概要>

募集人による申込書の偽造を理由とする契約無効および募集人の誤説明を理由とする募集人の説明どおりの年金の一括支払いを求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成 21 年 4 月に契約した医療保険（契約①）について、募集人が申込書に押印をして偽造したことから、契約を無効として既払込保険料を返還してほしい。また、平成 20 年 4 月に契約した年金保険（契約②）については、減額手続きの際に、募集人から年金受給開始時に一括で受領する場合の金額の説明があったが、実際にはその金額と異なるので、募集人の説明どおりの金額を支払ってほしい。

<保険会社の主張>

以下の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 契約①の申込書に押印された印鑑は、申立人が複数持参したものの一つで、申立人自ら押印している。
- (2) 契約②の年金を一括で受領する場合の金額は、将来の年金の現価に相当する金額（確定年金の総額を現在価値に割り引いた金額）であることを、募集人は説明している。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、申立人の主張する事実の有無等を把握するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人による申込書の偽造および誤説明は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。